

# 国のがれき広域処理要請

## 「大きな前進」と評価

知事会見

野田佳彦首相が十一日、「に基づき、東日本大震災で発生したのがれきの受け入れを全都道府県に文書で要請する」と表明したことについて

て、鈴木英敏知事は十三日の定例記者会見で、「大きな前進」と評価。その上で、県内での受け入れの是非は「市町の意向をしっかりと尊重しなければならぬ」と述べ、市・町村会とよく相談したい」と述べると、水面下の交渉もあって、歯切れの悪さへの苦澁をにじませた。

【2、17面に関連】

被災地のがれき処理に関する野田首相の発表内容について、「県が国に対して再三再四お願いしていた、

廃棄物の安全基準を示すことや、処理手順を示すことが盛り込まれている」と歓迎したほか、「総理が『日』とおっしゃった

本人としての国民性が試されている」と話した。

一方、受け入れをめぐる県内市町との協議は「相当やっている」としながらも、「情報収集や意見交換をする過程を公開することは、無用な議論を巻き起こしてしまわないか、という心配を持っている」と説明し、進捗状況についての言及は避けた。

情報公開の時期に関しては、「一定の結論が出た時にどう説明するかを市長会、町村会、各市町と相談して決める」と述べた。国に対しては「基準の策定などをしっかり進めてほしい」と、あらためて求めた。